

青森県埋蔵文化財調査報告書 第490集

中平遺跡Ⅱ

— 県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2010年3月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第490集

なか だい い せき
中 平 遺 跡 II

— 県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2010年3月

青森県教育委員会



中平遺跡全景（手前3本が農道9・10・11号、奥が岩木山）E→



農道1号全景 NE→



農道2（左）・8（右）号全景 NE→



農道 9号 SD03 火山灰検出 E →



農道 9号遺構群 NW →



農道 10号 SI04 カマド完掘 NW →



農道 10号遺構群 NW →



農道 10号 SI07 土馬 (出土状況・W →)



農道 10号 SD07 銅製鈴 (出土状況・SW →)



序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成20年度に県営野沢地区畑地帯総合整備事業予定地内に所在する中平遺跡の発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査では平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などの遺構や、同時代の土師器、須恵器、金属製品などの遺物が多数発見され、本遺跡が平安時代の大きな集落跡であることがわかりました。

出土遺物の中でも、銅製の鈴や、馬を模したと思われる土製品は、県内ではきわめて希少な出土例として注目されるとともに、大変学術的価値の高い資料です。

中平遺跡は、津軽平野の南東部に位置する青森市浪岡地区に所在します。当地域ではこれまでに東北自動車道建設を初めとする多くの公共事業に伴って、多数の遺跡の発掘調査が行われてきました。その結果、史跡高屋敷館遺跡や野尻遺跡群など、特に平安時代の大規模集落が多数存在していたことがわかっています。中平遺跡もその中の一つであり、周辺の集落と密接な関係があったことが考えられます。

本報告書は、平成20年度中平遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成22年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 新岡 嗣 浩

例 言

- 1 本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成20年度に発掘調査を実施した青森市中平遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は9,828㎡である。
- 2 中平遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字平野22-120外、青森県遺跡番号は201334である。
- 3 県営野沢地区畑地帯総合整備事業に伴って発掘調査報告書は既に2冊刊行されていて本書は第3冊目となる。中平遺跡の発掘調査報告書としては2冊目となる。
- 4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。
- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成20年4月22日～同年10月24日
整理・報告書作成期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
- 6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター 高山昇副参事・神康夫文化財保護主幹・田中珠美文化財保護主査・新山隆男文化財保護主査・白鳥文雄総括主幹・佐々木雅裕文化財保護主査・佐藤智生文化財保護主査、県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室茅野嘉雄文化財保護主査が担当し、文末に執筆者名を記した。依頼原稿については文頭に執筆者名を記した。
- 7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

幅杭設置及び水準測量業務	株式会社コンテック 東日本
ラジコンヘリによる空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル
土器類の写真撮影	シルバーフォト
石器類の写真撮影	スタジオ・エイト
石器類の石質鑑定	青森県立郷土館 島口 天
放射性炭素年代測定（ウイグルマッチング法）	株式会社 バレオ・ラボ
放射性炭素年代測定（AMS法）	株式会社 バレオ・ラボ
炭化材の樹種同定	株式会社 バレオ・ラボ
炭化種実の同定	札幌国際大学博物館 椿坂 泰代
銅鋳鈴の分析	京都国立博物館 村上 隆
火山灰の分析	弘前大学 柴 正敏
須恵器の産地同定	大阪大谷大学 三辻 利一
- 8 発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 9 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 10 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た（敬称略、順不同）。

村越潔、佐藤仁、藤沼邦彦、北林八洲晴、工藤清泰、利部修・宇田川浩一（秋田県埋蔵文化財センター）、宇部則保（八戸市教育委員会）、千葉孝弥（多賀城市教育委員会）、山崎忠良（新潟県教育委員会）、上条信彦、羽柴直人、坂本洋一、永嶋豊、石澤聡、株式会社澤田建設、有限会社開成工業、株式会社阿部重組、株式会社藤本建設。

11 本書に掲載した地形図（遺跡位置図等）は、国土地理院発行の25,000分の1地形図「浪岡」を複製して使用した。

12 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。

13 挿図中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。

14 全体図の縮尺は原則として調査区域図は1/5,000、遺構配置図は1/600もしくは1/500としたが、長大なものは1/1,000も使用した。各挿図毎にスケール等を示した。

15 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺構に使用した略号は、以下のとおりである。

S I - 竪穴住居跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S B - 掘立柱建物跡 S P - ビット
S N - 焼土遺構・赤褐色範囲 S V - 溝状土坑 S R - 埋設土器 S X - その他の遺構

16 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。

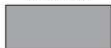
17 遺構実測図の縮尺は原則として、竪穴住居跡のカマド・炉等は1/30、竪穴住居跡・土坑・溝跡・掘立柱建物跡・溝状土坑・柱穴状ビット群等は1/60に統一し、各挿図毎にスケール等を示した。

18 遺構実測図に使用した主な網掛けの指示は以下のとおりで、これら以外は各挿図中に示した。

火床面範囲



炭化物散布範囲



火山灰範囲



側溝・溝



19 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。また、調査区で検出された火山灰について以下の略称も使用している。

白頭山苫小牧火山灰 - B-Tm 十和田 a 火山灰 - To-a 十和田八戸火山灰 - To-h

20 基本土層・遺構内堆積土層の色調表記等には、『新版標準土色帖2005年版』（小山正忠・竹原秀雄）を使用した。

21 遺物については、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺物に使用した略号と、遺物出土地点に示した記号の主なもの以下のとおりで、ここにはないものは各挿図中に示した。

土器 - P・● 石器 - S・■ 炭化材 - C・(形状を実測)

炭化種子 - 種・★ 金属製品 - F・▲

22 遺物実測図には、農道毎に1から通しの図番号を付した。

23 遺物実測図の縮尺は原則として、縄文土器・弥生土器・土師器・礫石器・鉄製品等は1/3、土製品・剥片石器等は1/2に統一し、各挿図毎にスケール等を示した。

24 遺物実測図に使用した主な網掛けの指示は以下のとおりで、これら以外のものは各挿図中に示した。

黒色処理
(土師器・土製品)
火タスキ痕 (須磨器)



黒色物・赤色顔料付着
(土器・土製品)
黒色変色範囲 (石器)



炭化物付着範囲(土師器)
還元面(羽口)
火ハジケ痕(剥片石器)
鉄分付着(礫石器)



化粧粘土付着(土器)
溶着物付着(羽口)
被熱範囲(剥片石器)



25 遺物観察表・計測表に使用した略号等については、各表毎に指示内容を示した。土器類計測値における()内の数値は、口径・底径は推定値、器高は現存値を記している。石器・土・石・金属製品の計測値における数値はすべて現存値である。土器類の調整技法あるいは文様については判別がつかざり施文された順序で観察表に記載してある。

26 遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付し、縮尺は不同である。

目 次

口絵

序

例言

目次

図版・表・写真目次

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査方法等	1
1 発掘作業の方法	1
2 整理・報告書作成作業の方法	5
第3節 調査経過等	6
1 発掘作業の経過	6
2 整理・報告書作成作業の経過	8

第2章 遺跡周辺の地形と基本層序

第1節 遺跡周辺の地形	10
第2節 基本層序	10

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 農道1号

1 検出遺構	15
(1) 建物跡・竪穴住居跡	15
(2) 土坑	23
(3) 溝跡	26
(4) 掘立柱建物跡・ビット	28
(5) 溝状土坑	30
(6) 埋設土器	32
2 遺構外の出土遺物	32
3 遺物観察表	35

第2節 農道2号

1 検出遺構	39
(1) 建物跡・竪穴住居跡	39
(2) 土坑	56
(3) 溝跡	57
(4) 掘立柱建物跡・ビット	58
(5) 溝状土坑	58
2 遺構外の出土遺物	63
3 遺物観察表	64

第3節 農道8号

1 検出遺構	67
(1) 建物跡・竪穴住居跡	67
(2) 土坑	77
(3) 溝跡	82
(4) 掘立柱建物跡・ビット列・ビット	85
(5) 埋設土器	87
2 遺構外の出土遺物	88
3 遺物観察表	93

第4節	農道9号	
1	検出遺構	99
	(1) 建物跡・竪穴住居跡	99
	(2) 土坑	111
	(3) 溝跡	125
	(4) 掘立柱建物跡・ピット	137
	(5) 焼土遺構	140
2	遺構外の出土遺物	141
3	遺物観察表	145
第5節	農道10号	
1	検出遺構	148
	(1) 建物跡・竪穴住居跡	148
	(2) 土坑	191
	(3) 溝跡	192
	(4) 掘立柱建物跡・ピット	195
	(5) 赤褐色範囲	197
	(6) 埋設土器	199
2	遺構外の出土遺物	199
3	遺物観察表	202
第6節	農道11号	
1	検出遺構	207
	(1) 建物跡・竪穴住居跡	207
	(2) 土坑	210
	(3) 溝跡	211
	(4) 掘立柱建物跡	219
	(5) 赤褐色範囲	220
2	遺構外の出土遺物	221
3	遺物観察表	221
第4章	理化学的分析結果	
第1節	青森市中平遺跡の火山灰について	223
第2節	放射性炭素年代及び炭化物の同定	226
1	放射性炭素年代測定	226
2	炭化材の樹種同定	236
3	中平遺跡出土の炭化種実	252
第3節	青森市中平遺跡出土の炭化植物種子	253
第4節	中平遺跡出土の鈴の材質と構造	259
第5節	中平遺跡出土須恵器の産地問題	262
ま	と	
め		267
引	用・参	
考	文	
献		270
付	章	
1	次	
報	告	
に	お	
け	る	
炭	化	
し	た	
イ	ネ	
に	つ	
い	て	
第1節	考古学的状況	271
第2節	炭化種実の放射性炭素年代測定	273
第3節	結語	278
写	真	
図	版	
		279
報	告	
書	抄	
録		351

図版目次

第1・2章	
図1 中平道跡 位置図	3
図2 中平道跡 調査路線と公共座標	4
図3 中平道跡 平成20年度調査区域図	11
図4 基本順序	12
農道1号	
図5 農道1号遺構配置図	13
図6 第1号竪穴住居跡と出土遺物	15
図7 第2号建物跡	17
図8 第2号建物跡 出土遺物(1)	20
図9 第2号建物跡 出土遺物(2)	21
図10 第3号竪穴住居跡と出土遺物	22
図11 土坑と出土遺物	25
図12 第1号溝跡	27
図13 第1号溝跡 出土遺物	28
図14 ビットと出土遺物	29
図15 溝状土坑・埋設土器	31
図16 遺構外出土遺物(1)	33
図17 遺構外出土遺物(2)	34
農道2号	
図18 農道2号遺構配置図	37
図19 第1号建物跡	40
図20 第1号建物跡 出土遺物	41
図21 第2号建物跡	42
図22 第2号建物跡 出土遺物	43
図23 第3号竪穴住居跡・第4号建物跡	44
図24 第3号竪穴住居跡・第4号建物跡 出土遺物	45
図25 第5号建物跡(1)	47
図26 第5号建物跡(2)	48
図27 第5号建物跡 出土遺物(1)	49
図28 第5号建物跡 出土遺物(2)	50
図29 第5号建物跡 出土遺物(3)	51
図30 第5号建物跡 出土遺物(4)	52
図31 第6号建物跡	54
図32 第6号建物跡 出土遺物	55
図33 土坑と出土遺物	59
図34 第7号土坑、第5・6・7号溝跡と出土遺物	60
図35 掘立柱建物跡	61
図36 第1号溝状土坑	63
図37 遺構外出土遺物	63
農道8号	
図38 農道8号遺構配置図	65
図39 第1号建物跡	69
図40 第1号建物跡 出土遺物(1)	71
図41 第1号建物跡 出土遺物(2)	72
図42 第2号建物跡	74
図43 第2号建物跡 出土遺物	75
図44 第3号竪穴住居跡と出土遺物	77
図45 土坑	80
図46 土坑 出土遺物	81
図47 溝跡	83
図48 溝跡 出土遺物	84
図49 ビット列	86
図50 第1号埋設土器	87
図51 遺構外出土遺物(1)	89
図52 遺構外出土遺物(2)	90
図53 遺構外出土遺物(3)	91
図54 遺構外出土遺物(4)	92
農道9号	
図55 農道9号遺構配置図	97
図56 第1号竪穴住居跡	100
図57 第1号竪穴住居跡 出土遺物(1)	101
図58 第1号竪穴住居跡 出土遺物(2)	102
図59 第2号竪穴住居跡と出土遺物	104
図60 第3号竪穴住居跡	105
図61 第3号竪穴住居跡 出土遺物	106
図62 第4号竪穴住居跡	107
図63 第5号建物跡	109
図64 第5号建物跡 出土遺物	110
図65 第6号竪穴住居跡	110
図66 土坑(1)	120
図67 土坑(2)	121
図68 土坑(3)	122
図69 土坑(4)	123
図70 土坑 出土遺物	124
図71 溝跡(1)	126
図72 溝跡(2)	127
図73 溝跡(3)	131
図74 溝跡 出土遺物(1)	133
図75 溝跡 出土遺物(2)	134
図76 溝跡 出土遺物(3)	135
図77 掘立柱建物跡	138
図78 掘立柱建物跡・ビット 出土遺物	140
図79 焼土遺構	141
図80 遺構外出土遺物(1)	142
図81 遺構外出土遺物(2)	143
図82 遺構外出土遺物(3)	144
農道10号	
図83 農道10号遺構配置図	149
図84 第1号建物跡(1)	152
図85 第1号建物跡(2)	153
図86 第1号建物跡 出土遺物(1)	154
図87 第1号建物跡 出土遺物(2)	155
図88 第2号建物跡	157

図89	第2号建物跡 出土遺物	158
図90	第3号建物跡(1)	161
図91	第3号建物跡(2)	163
図92	第3号建物跡 出土遺物(1)	164
図93	第3号建物跡 出土遺物(2)	165
図94	第3号建物跡 出土遺物(3)	166
図95	第4号建物跡(1)	168
図96	第4号建物跡(2)	169
図97	第4号建物跡 出土遺物(1)	170
図98	第4号建物跡 出土遺物(2)	171
図99	第5号建物跡(1)	172
図100	第5号建物跡(2)	173
図101	第5号建物跡 出土遺物(1)	173
図102	第5号建物跡 出土遺物(2)・第9号土坑 出土遺物	174
図103	第6号建物跡	176
図104	第6号建物跡 出土遺物	177
図105	第7号建物跡	179
図106	第7号建物跡 出土遺物(1)	181
図107	第7号建物跡 出土遺物(2)	182
図108	第8号竪穴住居跡(1)	184
図109	第8号竪穴住居跡(2)	185
図110	第8号竪穴住居跡 出土遺物(1)	186
図111	第8号竪穴住居跡 出土遺物(2)	187
図112	第9号竪穴住居跡	189
図113	第9号竪穴住居跡 出土遺物	190
図114	第10号土坑、第3・5号溝跡	193
図115	第1・2・18号土坑、第11号溝跡	194
図116	土坑・溝跡 出土遺物	194
図117	第4号土坑周辺ピット群	196
図118	赤褐色範囲	198
図119	埋設土器	199
図120	遺構外出土遺物(1)	200
図121	遺構外出土遺物(2)	201
農道11号		
図122	農道11号遺構配置図	208
図123	第1号建物跡と出土遺物	209
図124	第5号土坑・第2号掘立柱建物跡と出土遺物	211
図125	溝跡(1)	212
図126	溝跡(2)・土坑	213
図127	溝跡(3)	214
図128	溝跡(4)	215
図129	溝跡 出土遺物(1)	215
図130	溝跡 出土遺物(2)	216
図131	溝跡 出土遺物(3)	217
図132	谷地形(Ⅲ層上面)で確認された赤褐色土の範囲	220
図133	遺構外出土遺物	221

第3章 理化学的分析結果

図134	農道10号SI09% C_5 の炭化材試料と年輪計測結果	229
図135	農道2号SI05% C_5 の炭化材試料と年輪計測結果	233
図136	単体で年代測定を行った炭化材試料	233
図137	農道10号SI09% C_5 のウイグルマッチング結果	233
図138	農道2号SI05% C_5 のウイグルマッチング結果	233
図139	ウイグルマッチング測定試料の最外試料年代の暦年校正図	234
図140	単体測定試料の暦年校正図と考古学的手法による想定年代との比較	234
図141	単体測定試料の暦年校正結果	235
図142	竪穴住居跡出土炭化材の樹種構成グラフ	240
図143	ウイグルマッチング測定試料炭化材の走査型電子顕微鏡写真	246
図144	中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)	247
図145	中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)	248
図146	中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(3)	249
図147	中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(4)	250
図148	中平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(5)	251
図149	中平遺跡から出土した炭化種実	252
図150	中平遺跡出土炭化種子	258
図151	鈴の垂直断面スライス像	261
図152	鈴の水平断面スライス像	261
図153	須臾器分析試料実測図集成	265
図154	中平遺跡8・9・10・11号出土須臾器等の 両分布図	266
まとめ・付章		
図155	中平遺跡出土土器の変遷(1)	268
図156	中平遺跡出土土器の変遷(2)	269
図157	分析試料採取の状況(1)	271
図158	分析試料採取の状況(2)	272
図159	暦年校正結果	276
図160	暦年校正結果の比較	277

写真図版目次

口絵1	空中写真	
口絵2	検出遺構・出土遺物	
写真1	遺跡空中写真(1)	279
写真2	遺跡空中写真(2)	280
写真3	基本層序	281
写真4	農道1号(1)	282
写真5	農道1号(2)	283
写真6	農道1号(3)	284
写真7	農道1号(4)	285
写真8	農道1号(5)	286
写真9	農道1号出土遺物(1)	287
写真10	農道1号出土遺物(2)	288
写真11	農道1号出土遺物(3)	289
写真12	農道2号(1)	290
写真13	農道2号(2)	291
写真14	農道2号(3)	292
写真15	農道2号(4)	293
写真16	農道2号(5)	294
写真17	農道2号(6)	295
写真18	農道2号(7)	296
写真19	農道2号(8)	297
写真20	農道2号出土遺物(1)	298
写真21	農道2号出土遺物(2)	299
写真22	農道8号(1)	300
写真23	農道8号(2)	301
写真24	農道8号(3)	302
写真25	農道8号(4)	303
写真26	農道8号(5)	304
写真27	農道8号(6)	305
写真28	農道8号(7)	306
写真29	農道8号(8)	307
写真30	農道8号出土遺物(1)	308
写真31	農道8号出土遺物(2)	309
写真32	農道8号出土遺物(3)	310
写真33	農道8号出土遺物(4)	311
写真34	農道9号(1)	312
写真35	農道9号(2)	313

写真36	農道9号(3)	314
写真37	農道9号(4)	315
写真38	農道9号(5)	316
写真39	農道9号(6)	317
写真40	農道9号(7)	318
写真41	農道9号(8)	319
写真42	農道9号(9)	320
写真43	農道9号(10)	321
写真44	農道9号(11)	322
写真45	農道9号(12)	323
写真46	農道9号出土遺物(1)	324
写真47	農道9号出土遺物(2)	325
写真48	農道9号出土遺物(3)	326
写真49	農道10号(1)	327
写真50	農道10号(2)	328
写真51	農道10号(3)	329
写真52	農道10号(4)	330
写真53	農道10号(5)	331
写真54	農道10号(6)	332
写真55	農道10号(7)	333
写真56	農道10号(8)	334
写真57	農道10号(9)	335
写真58	農道10号(10)	336
写真59	農道10号(11)	337
写真60	農道10号(12)	338
写真61	農道10号(13)	339
写真62	農道10号出土遺物(1)	340
写真63	農道10号出土遺物(2)	341
写真64	農道10号出土遺物(3)	342
写真65	農道10号出土遺物(4)	343
写真66	農道10号出土遺物(5)	344
写真67	農道10号出土遺物(6)	345
写真68	農道11号(1)	346
写真69	農道11号(2)	347
写真70	農道11号(3)	348
写真71	農道11号(4)	349
写真72	農道11号出土遺物(1)	350

表 目 次

第1・2章	
表1	主要点の国土地権値及び標高値一覧……………1
表2	中平遺跡と周辺の遺跡一覧……………2
農道1号	
表3	農道1号SP計測表……………29
表4	農道1号土器類観察表……………35
表5	農道1号石器・石製品・土製品観察表……………36
農道2号	
表6	農道2号SP計測表……………62
表7	農道2号土器類観察表……………64
表8	農道2号土製品観察表……………64
農道8号	
表9	農道8号SX01ピット計測表……………86
表10	農道8号SX02ピット計測表……………86
表11	農道8号SP計測表……………85
表12	農道8号土器類観察表……………93
表13	農道8号石器・石製品・土製品・金属製品観察表……………95
農道9号	
表14	農道9号SP計測表……………139
表15	農道9号土器類観察表……………145
表16	農道9号石器・石製品・土製品・金属製品観察表……………147
農道10号	
表17	農道10号SP計測表……………197
表18	農道10号土器類観察表……………202
表19	農道10号石器・石製品・土製品・金属製品観察表……………206
農道11号	
表20	農道11号SP計測表……………219

表21	農道11号土器類観察表……………221
表22	農道11号石器・石製品観察表……………222
第3章 理化学的分析結果	
表23	中平遺跡火山灰試料……………225
表24	ウイグルマッピング測定試料及び処理……………226
表25	単体測定試料及び処理……………228
表26	農道10号SI09NaC-5(ニガキ)の放射性炭素年代測定、 暦年較正、ウイグルマッピングの結果……………230
表27	農道2号SI05NaC-55(コナラ属コナラ節)の放射性 炭素年代測定、暦年較正、ウイグルマッピングの 結果……………230
表28	単体試料の放射性炭素年代測定および、暦年較正 の結果……………230
表29	ウイグルマッピング測定試料の詳細と樹種同定結 果……………237
表30	単体測定試料およびその他の炭化材の樹種同定結 果……………237
表31	竪穴住居跡出土炭化材の形状別樹種同定結果……………241
表32	竪穴住居跡出土炭化材の木取り別樹種同定結果 ……………241
表33	中平遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧……………243
表34	中平遺跡炭化種子出土表……………257
表35	青森県中平遺跡8・9・10・11号出土須石器等の 分析データ……………265
付 録	
表36	測定試料及び処理……………273
表37	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果……………274
表38	図の引用及び出典……………278

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

平成15年8月、青森県農林水産部農村整備課が計画していた浪岡野沢地区畑地帯総合整備事業（農道改良事業）予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、当該事業を担当する中南方農林水産事務所水利防災課（現・中南方地域県民局地域農林水産部水利防災課）と青森県教育庁文化財保護課が協議を行った。当該事業予定地内には周知の寺屋敷平遺跡と中平遺跡が所在するため、農道の基本設計完了後、平成16年10月に水利防災課と文化財保護課が現地調査（分布調査）を行った上で再度協議し、翌平成17年6月には文化財保護課が寺屋敷平遺跡の確認調査を実施した。現地調査と確認調査の結果を受けて、平成18年度に青森県埋蔵文化財調査センターが担当して寺屋敷平遺跡の本発掘調査と中平遺跡の確認調査を実施することになった。中平遺跡の確認調査は平成18年4～5月に行われ、本発掘調査の範囲が確定した。水利防災課と文化財保護課の打合せで、中平遺跡の本発掘調査は当初平成19・20年度の二ヶ年で実施する計画であったが、その後、事業者側の要請で平成20～21年度の三ヶ年で実施計画に変更された。平成19年度の発掘調査は農道6号、7号の全区域と農道9～11号の幹線道路より北側の区域が行われた。平成20年度の発掘調査については、平成19年10月及び11月に発掘調査予定地の現地確認と調査計画等についての打合せが行われ、平成20年4月22日から発掘調査が行われた。

なお、中平遺跡に係る土木工事等のための発掘に関する通知書は、平成15年6月30日付けで中南方農林水産事務所長名で提出され、同年8月6日付けで青森県教育委員会教育長から当該発掘前における埋蔵文化財の記録の作成のための発掘調査の実施が指示されている。また、平成17年4月1日の青森市と浪岡町の合併に伴って、事業名が県営野沢地区畑地帯総合整備事業に変更され、東地方農林水産事務所水利防災課（現・東青地域県民局地域農林水産部水利防災課）がこの事業を所管している。

(高山)

第2節 調査方法等

1 発掘作業の方法

平成18年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した確認調査により、縄文時代・古代の遺物と遺構（竪穴住居跡等）が確認されたため、縄文時代・古代の遺構調査に重点をおいて、各集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕各路線の測量原点及びレベル原点には工事用の既存成果を利用し、各調査対象区域内に標準の国土座標値と標高値を備えた工事用幅杭や任意の基準杭を設置し、これらを実測基準点として使用した。設置にあたっては、農道2・9・10・11号は農道工事受注業

表1 主要点の国土座標値及び標高値一覧

農道	点名	国土座標値 (世界測地系-JGD2000)		標高値 (m)
		X	Y	
1号	NO.7	80146.283	-23288.346	-
	NO.9	80097.015	-23675.367	-
	NO.11	80047.747	-23782.388	-
	KBM.2	-	-	33.324
2号	NO.1	80330.657	-23492.132	-
	NO.3	80317.940	-23569.086	-
	NO.5	80312.207	-23690.399	-
	KBM.1	-	-	36.157
8号	A-NO.1L	80504.186	-23430.201	36.040
	A-NO.3L	80476.332	-23519.297	36.809
	A-NO.4L	80442.942	-23566.514	35.841
	KBM.2	-	-	37.257
9号	KBM.3	-	-	34.430
	B-NO.3L	80378.370	-23504.166	-
	B-NO.6L	80341.065	-23170.873	-
	B-NO.7L	80303.534	-23137.834	-
10号	KBM.1	-	-	38.273
	ANO.5	80447.066	-23119.089	-
	ANO.6	80409.433	-23086.191	-
	ANO.7	80371.791	-23053.293	-
11号	ANO.8	80331.030	-23024.580	-
	KBM.2	-	-	38.371
	INO.8	80499.135	-22813.526	-
	INO.9	80461.603	-22880.490	-
KBM.2	-	-	31.252	

※各点の位置は各農道遺構配置図に示している。

者に依頼し、農道1・8号は測量業者株式会社コンテック東日本に業務委託した。主な基準点の国土座標値(世界測地系)及び標高値は表1に、各農道と公共座標軸の位置関係、各農道の基準主要点については図2と各農道遺構配置図にそれぞれ示してある。また、必要に応じてこれら実測基準点を与点として調査路線周辺に基準杭・ベンチマークを増設して使用した。

遺構・基本土層の精査や遺構外出土遺物の取り上げにあたっては、各農道の中心線を基準に起点から5メートルごとで区切ってグリッドとし、平面的出土位置を記録して取り上げた。例えば農道1号の場合、起点(No0)から5mまでは「1-1グリッド」、5~10mまでは「1-2グリッド」…、100~105mまでは「1-21グリッド」…、農道9号の場合、起点(No0)から5mまでは「9-1グリッド」、5~10mまでは「9-2グリッド」…、100~105mまでは「9-21グリッド」…、というように呼称した。ただし農道2号だけは起点(No0)から5mまでは「2-0グリッド」、5~10mまでは「2-1グリッド」…、100~105mまでは「2-20グリッド」…、というように呼称した。グリッドの配置は各農道の遺構配置図に赤字で示している。

〔基本土層〕遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、細分が必要な場合は小文字のアルファベットを付した。

〔表土等の調査〕平成18年度の確認調査により、表土から古代の遺構確認面までは畑地造成や砂利道として攪乱されていることが分かっていたので、重機を使用して掘削の省力化を図った。出土した遺物は、適宜地区単位で層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や堅穴住居跡に伴うが・カマド等の平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遺り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物は遺構単位・遺構内地区単位で層位毎に又は堆積土一括で取り上げたが、床面(底面)やが・カマドの出土遺物については、トータルステーションや簡易遺り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遺り方測量により、縮尺1/20・1/10のドットマップ図や形状実測図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

表2 中平遺跡と周辺の遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	時代	種類
201319	ア子平遺跡	縄文(後)、平安	散布地
201320	坂口遺跡	平安	散布地
201323	坂口遺跡	平安	散布地
201324	中平遺跡	縄文(後)、平安	散布地
201325	高岡宮前遺跡	縄文(前)	散布地
201326	標立跡地遺跡	平安	散布地
201327	水原遺跡	縄文(前-後)	散布地
201328	上野遺跡	縄文(中-後)、平安、弥生、古墳	散布地、集落跡
201329	神野宮前遺跡	縄文(前-後)、平安	散布地、集落跡
201340	山神宮前遺跡	縄文(前)	散布地
201341	長尾遺跡	縄文(中-後-晩)、古墳、平安、小笠	散布地、墳墓
201342	大塚遺跡	縄文、平安	散布地
201376	熊野遺跡	中世	城跡
201385	林田遺跡	平安	散布地
201396	小笠原中平遺跡	平安	散布地
201397	標立上野遺跡	縄文、平安	散布地
201398	標立前村北遺跡	平安	散布地
201399	ア子川中野遺跡	縄文(中)、平安	散布地
201411	藤原野遺跡	平安	散布地
201412	標立村北遺跡	縄文、平安	散布地
201414	熊田遺跡	平安	散布地
201008	川崎遺跡	縄文(前)、平安、古墳	散布地
201009	坂+峰(1)遺跡	縄文(前-後)、中世-後、平安、古墳	散布地、墳墓跡等
201018	持子跡	縄文(前)、平安、中世	散布地、城跡
201041	貞江遺跡	平安	散布地
201059	坂+峰(2)遺跡	縄文、古墳、平安	散布地
201060	坂+峰(3)遺跡	縄文、平安	散布地
201062	標川(2)遺跡	新石器、縄文(早-後)、中世-後、平安、古墳	散布地
201063	標川(3)遺跡	縄文(前-中-後-晩)、古墳、平安、古墳	散布地
201064	標川(4)遺跡	縄文(早-後)、中世-後、古墳、平安、古墳	散布地
201065	標川(5)遺跡	平安	散布地
201066	標川(6)遺跡	縄文、平安	散布地
201067	標川(7)遺跡	平安、古墳	散布地
201072	標川(12)遺跡	縄文(前-中-後-晩)、古墳、平安、古墳	集落跡
201101	比野遺跡	平安	散布地、墳墓跡等

※遺跡番号は図1の図中番号と対応する。

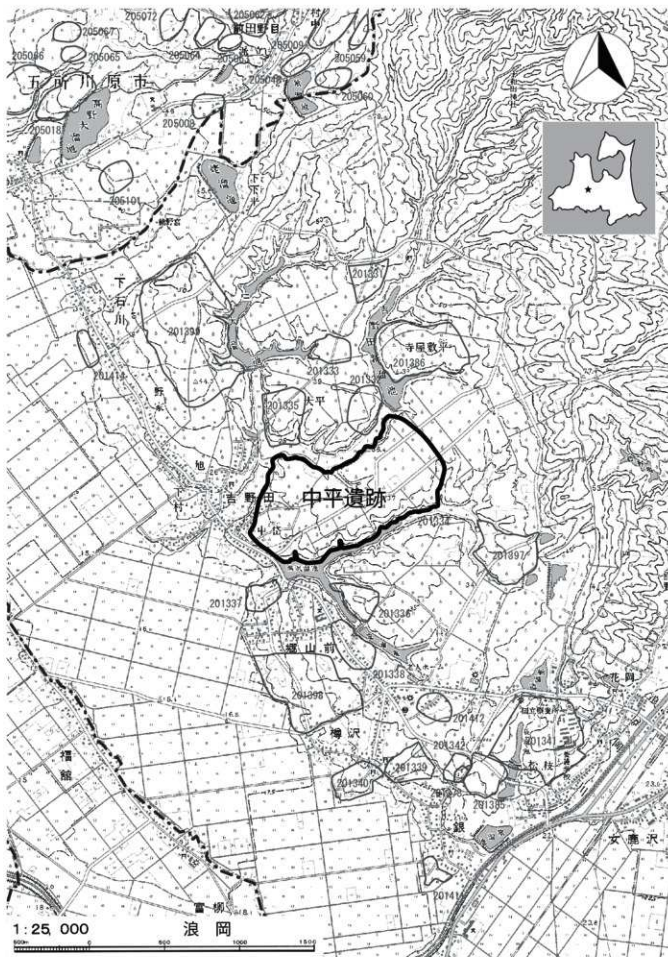


図1 中平遺跡 位置図